



「すり足」「大笑い」「泣き」…狂言の所作を体験！ ～「小学生狂言ワークショップ」を開催！～

と き 9月18日(水) 午前8時50分から10時20分

ところ 区立下石神井小学校(練馬区下石神井2-20-18)

18日、区立下石神井小学校(石神 徹 校長:児童数693人)6年生129人の児童を対象に、狂言を身近に感じてもらおうと、「狂言ワークショップ」が行われた。

講師には、野村万作氏が主宰する「万作の会」から、第一線で活躍する狂言師の高野 和憲氏、岡 聡史氏、内藤 連氏の三名が派遣され、小学生に「狂言は、舞台上に立った人は思ったことをすべてしゃべる台詞劇。喜劇なので、面白いと思ったところは皆さんも声を出して笑って、楽しんでください」と説明した。岡氏と内藤氏による狂言「盆山(ぼんさん)」の上演後、演目の解説や狂言独特の節回し、「すり足」、「大笑い」、「泣き」といった所作の指導が行われた。ワークショップの最後には、演目「くさびら」に登場するくさびら(茸)の動きを体験し、小学生たちは、古典芸能の世界に親しんだ。

この日、ワークショップに参加した女子児童は、「狂言師の方たちの発声や立ち振る舞いに、テレビで見たものよりも勢いと迫力を感じました。正座で話を聞き続けたり、すり足の動作をするのは想像していたより大変でした。」と、話してくれた。



【ワークショップの様子】

【「小学生狂言ワークショップ」とは】

平成23年1月、人間国宝で練馬区名誉区民の野村万作氏が、練馬文化センターの名誉館長に就任した。これを契機に、区内の小学生に狂言を身近に感じてもらおうと、万作の会の協力により、平成23年度から開催されている事業。

ワークショップは小学生を対象に、「狂言を体験しながら、独特の声や音にそって繰り広げられる狂言の世界を通じて、表現する楽しさを学んでもらう」という内容。これまで、区内小学校12校で実施されてきた。(平成23年:4校、平成24年度:8校)

今年度、小学生狂言ワークショップは、この日行われた下石神井小学校を含め区内小学校8校で実施する予定。スケジュールは以下のとおり。

9月19日(木):橋戸小学校	27日(金):富士見台小学校	
10月4日(金):北原小学校	8日(火):谷原小学校	31日(木):大泉学園小学校
11月15日(金):光が丘四季の香小学校	19日(火):練馬第二小学校	

【狂言教室の開催にあたって】

区では、区民の文化芸術活動を活性化する施策を推進しており、特に子どもや青少年が文化芸術に触れる機会の充実を図っている。こうした事業を継続して行っていくことで、伝統文化を次世代に継承するとともに、新たな文化芸術の担い手の育成を目指している。この日、指導にあたった高野和憲氏は「狂言に親しんでもらうため、演目内の出来事を、現代の身近な出来事に置き換えて説明するようにしている。今日一日だけでも、狂言の世界を楽しんでもらえれば。」と話してくれた。

【問い合わせ】 練馬区文化振興協会 電話 03-3993-3311